

## 会 議 録

会議の名称	平成15年度 第6回西東京市環境審議会
開催日時	平成15年9月5日(金) 19時00分から20時40分まで
開催場所	西東京市役所保谷庁舎 東分庁舎地下1階 第1会議室
出席者	<p>【委員】金井委員、櫻井委員、清水委員、三木委員、網野委員、宇都宮委員、松永委員、和田委員、鈴木委員、村松委員、金成委員、中村委員、松本委員、矢内会長、西川副会長、菊池副会長</p> <p>【事務局】大森環境防災部長、山本環境保全課長、青柳環境保全課長補佐、横山環境計画係主事、ブレック研究所 辻坂、山内</p>
議 題	<p>1. 前回会議録の確認</p> <p>2. 環境基本計画答申中間まとめ(案)について</p> <p>3. その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 西東京市環境基本計画中間まとめ(案)</p> <p>資料2 第5回審議会での各委員からの重点プロジェクト提案のまとめ</p>
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
会 議 内 容	
<p>(19時00分開会)</p> <p>矢内会長 前回の審議会後、一度小委員会を開いた上で、中間まとめ案を作成した。まず、いつものように前回会議録の確認から。お気づきの点ありますか。</p> <p>櫻井委員 4頁で、「ヒートアイランド現象は、地球環境問題の中で扱ってほしい。」ということ です。地球温暖化対策ゲームの提案があったということも加えておいてほしい。</p> <p>矢内会長 他にもありましたら、後からでもいいので、ご指摘ください。 今日の予定として、まず中間まとめ案についてざっと確認をして、次に重点プロジェクトに関して、資料に関しての検討を行いたい。 シンポジウムに向けて、今後の予定として、パネリストの方、報告いただく方には、事前に打合せをする時間をとりたいので、後ほど調整したい。 それでは、事務局から、環境シンポジウム実施計画の報告をいただきたい。パネリストとして審議会委員からは松永委員に了解いただいたので、お願いしたい。</p> <p>青柳環境保全課長補佐 パネリストの事業者代表として、田無商工会会長の小西さんに新たにお問い合わせ。広報については、市報の15日号に載せる予定。HPにも掲載中。その他、ダイレクトメー</p>	

ルでの案内も、NPOやアンケートに協力いただいた事業者などに、来週中には発送したい。ポスターは、市内の公共施設などには貼りたい。委員にも、チラシとポスターをお配りする。

矢内会長

それでは、今日の協議事項として、中間まとめについてお気づきの点などありましたら。

清水委員

たくさんありますので、文書で提出したい。

主な点として、15頁、環境問題の広がりとして、地球への人為的影響など新しい言葉が多く出ているので、意味を説明する必要があるのではないかと。

2つ目は、整合性の問題。例えば基本方針3について、将来像部分と20頁との整合性。農と消費の一体化については、将来像の中にも入れておく必要があるのではないかと。

数値目標は、設定が荒っぽいのではないかと。例えば52頁では、ゴミに関する目標が出ていない。この段階で市民に公開するのは問題なので、中途半端に載せるくらいであれば、現段階では削除しても良いかもしれない。

ヒートアイランド現象については、49頁ではヒートアイランドに関する解説が出てこない。53頁などでは、西東京がヒートアイランドの元凶のような書き方になっている。あくまで、将来影響を受ける可能性があるというような認識のもとで、書くべきではないかと。

矢内会長

シンポジウムにかけて中間まとめを作るが、概要版も作成する予定である。現状と課題などで未確定の部分などもあるので、そういったところは概要版ではかなり圧縮していきたい。ページの割り振りを考えながら、概要版の構成は考えたい。

数値目標については、まだ議論がなされていないので、どのレベルまで目標を出していくかとかは今後の課題となる。概要版では数値目標は入れないことになる。

櫻井委員

17頁、18頁は、19頁以降へのきっかりな位置付けと考えているが、この部分は、今後やることをすべて盛り込むべきものなのか、きっかりなのか、委員それぞれで認識の差があるのではないかと。

清水委員

将来像の中でも、やることについて一通りの複線をはっておくべきと考える。農と消費の一体化という考え方が基本方針3の将来像の中に無いように思える。

金成委員

数値目標は、市民の目に見えるものがよい。ごみの減量など、具体的な目標を出した方がよいと思う。

矢内会長

基本方針3の中で、農と消費の一体化については、確かに連続性が途切れているような気はする。

櫻井委員

60頁、61頁で、地産地消の推進というのが何故ここで入ってくるのかということ、それにより農地の保全につながるということもあるが、市の施策で今回削られたもの(輸送コストなどの考慮...)が非常に重要であったと考える。

ここは、資源リサイクルと省エネの考え方から出てきているところなので、その趣旨を含んだような書き方をしておいてほしい。地産地消によって、それが達成されるのだということが重要だ。地産地消だと、輸送コストや包装の手間なども省ける。

青柳環境保全課長補佐

輸送コストについては、大切な視点ではあるが、市の施策としては難しいのではないかと判断した。

矢内会長

かなり重要なテーマではあるので、事業者がむしろ取り組むべきことかもしれない。その考え方は、どこかに入れておいてほしい。

「農と消費の一体化」というキーワードについては、事務局で考えてみたい。

西川副会長

将来像の中に、一通り盛り込むということについて櫻井委員の意見にだいたい賛成する。農と消費の一体化も、キーワードとして出しておくのでよいのではないかと。

櫻井委員

53頁、54頁で、広域的な環境問題への対応というタイトルは良い。

クリーンエネルギーという言葉が、新エネルギーに変わっているが、言葉の置き換えだけではすまないのではないかと。ここで扱っている新エネルギーとは、クリーンエネルギーのこと、つまり地球にやさしいエネルギーということ。脚注によると、新エネルギーは単に化石燃料以外のことを指しているととれる。ここでは、環境にやさしいエネルギーの利用推進という意図なので、クリーンエネルギーが適当ではないかと。脚注はどこから採られたものかわからないが、市としての新エネルギーの考え方を示すような表現がよい。

三木委員

クリーンエネルギーという言葉には定義がないので、国の定義のある新エネルギーが良いと提案した。脚注を、法の定義に合わせれば違和感はなくなるのではないかと。

櫻井委員

CO<sub>2</sub>に加え、大気汚染物質の削減も含めて、新エネルギーの推進に意義があるのではないかと。化石燃料を使えばCO<sub>2</sub>は必ず発生する。例えば、燃料電池についても、水素の確保をどうするかが問題である。

矢内会長

エネルギー高消費社会を是認するかという問題にもつながってくる。審議会では、エネルギーについて深い議論をしてきたわけではないので、そうした議論は、ここではおいておいた方がよい。環境全般を良くしようという浅エコロジ的なスタンスで検討してきている。

新エネの脚注は、国のものに直しておいてください。

清水委員

公害の中に、自動車騒音とかを含めて捉えるのはどうかと思う。今の時代と合わない。

金井委員

今の櫻井委員の指摘は重大なところだと思う。中間まとめはボリュームがあるので、しっかりと見ていかないといけないところだが、そろそろ最終的な姿を見据えて検討する必要がある。

重点プロジェクトを一度はずした状態なので、目標がはっきりしなくなったところがある。このあたりで、何が実際に出来るのかははっきりさせた上で、全体の構成についてもう一度見直し、すっきりとした流れを作っていくべきではないか。

宇都宮委員

新エネや省エネに関しては、新エネビジョンなどを自治体などで作っているの、ここでは新エネ財団のきちんとした定義があるので、その概念に併せて、西東京市でも取り組んでいくというので良いのではないか。

最近、新エネルギーの概念でも石油代替エネルギーという考えよりも、環境にやさしいエネルギーという考え方が中心的になってきている。

青柳環境保全課長補佐

新エネについては、法でも定義されている。その中では、自然エネルギーとエネルギー利用形態の大きく2つが示されている、クリーンエネルギーというのは、自然エネルギーという考えに近いので、そちらにしてしまうのも手。市でもつかえるようなエネルギー形態の紹介という観点から脚注するという手もある。

三木委員

クリーンエネルギーには定義がないので、新エネに置き換えた経緯がある。市で利用可能なエネルギーの紹介のような意図を書くということでもよい。

清水委員

新エネは、経産省でもプロジェクトをやっている。明確な定義を示すことが重要。あるいは、市で利用可能なエネルギーの紹介のような意図を書くということでもよい。

矢内会長

出典を明示するということは留意してもらいたい。そうすれば、脚注にも余計な誤解を避けることが出来る。

櫻井委員

「プラスチックゴミなどの再資源化」というのは、プラスチックを前面に出したいという意図が感じられるが、これは必要ないのではないか。

矢内会長

例えば重点で「プラスチックゴミの資源化」とか出れば、施策展開ではこれはずすとも考えられる。

さて、別の資料で、重点についての提案を私の方でまとめている。提案されたものを1頁目で箇条書きにしている。これら全てを取り上げるわけにはいかないが、2頁以降でキャッチフレーズとしてあげたものを、プロジェクトの柱として盛り込んでいく方向でいいのか確認しておきたい。

ほとんどのプロジェクトは、基本方針のいずれかと関連性が高くなっているが、そういうところにも注意して見ていただきたい。バランスとか、つながりにも注意してほしい。例示したプロジェクトを取り上げるかどうか、ご意見お願いしたい。

金井委員

全部出来ればよいのだが、5年後に出来るのかどうか予想、検討した上で出していくほうが、より効果があがるだろう。審議会としては、やったほうが良いことを提案する立場ではあるが、実現可能性、実現したときの効果とかを考えてみたい。出来るものを抽出して数を減らすとか、難しいものは10年間の取組みとするととも考えられる。

矢内会長

基本方針とのバランスという点からは、基本方針1からは1つだけ、基本方針3からは数が多い。あまり区分にとられる必要も無いかもしれませんが。

鈴木委員

基本方針2の将来像の記述では、東大農場の緑を核と位置付けているので、重点でも早急な対策を出していくことが求められるのではないかと。保全のための施策を明記しておかないと、具体的な保全につながらないのではないかとと思うので、そのあたりを気をつけて見ていきたい。

矢内会長

全体を見たとき、軽重があったり、議論の不足しているところがあったりしていると思うが、優先度の高いものとかはありますか。また、一体化できるプロジェクトもあるかもしれませんが。

櫻井委員

審議会として、この程度はやってほしいという意見を出したい。だから、この段階では多く出しておけば、市としても施策を選択することが出来てよいのではないかと。

矢内会長

とりあえず中間まとめでは取組みは多く挙げておくとしても、その後、個々の取組みについては5年でやるか10年でやるかとかをふまえてタイムスケジュールとかを考えて

いくということも良いのではないか。

シンポジウムでは、中間まとめの骨格を示した上で、重点の骨格の提案をしたいが、その後の審議会では、重点について具体的な検討が出来ると思います。その点を中間まとめで示しておけばよいのではないか。

松永委員

ボリュームという点では13項目あるが、中間まとめではこのまま残しておくのでよいと思う。ワークショップでの成果も入っているので、残しておいた方が、とっかかりとしては良いのではないか。

網野委員

賛成です。ただ、最終答申では、プロジェクトの数を絞って出すということは合意しておいた方が良いのではないか。数を絞るのも大変なので、シンポジウムなどのプロセスを経て進めて、審議会として責任を持って発表できるようなものにしていきたい。

清水委員

絞る場合の基準が難しい。市の特色を出せるようなプロジェクトということで選ぶとして、例えば何が選べるか。

環境ビジネスについては、これが増えればさすが西東京ということになる。そういうようなプロジェクトを選ぶというのもひとつの手ではないか。

金井委員

出来そうなプロジェクトを選ぶのに加え、東大農場の保全是重要となる。これは具体的な取組みは難しい。取組みを進める上でのヒントがなにかほしい。

櫻井委員

市ならではという観点も良い。ただ、あたりまえのことをあたりまえにやるというのが、環境保全の基本。だから、一般的に重要な緑地保全とか情報発信とかも入れておく必要があるのではないか。必要なものは残しておくといくことでよいが、あたりまえでやっていくものは、あえて重点として入れなくても良いという考えもあります。

矢内会長

むしろ実施するにあたってあまり手がかからないものというのを選ぶのも良いのではないか。

中間まとめでは、資料のようなかたちで一通り盛り込むということでいいでしょうか。次回以降の審議会で踏み込んだ検討をしたい。

金井委員

その後の議論にあたっては、例えば東大農場をどうするかとかいうことでヒントを今のうちで示しておきたい。

宇都宮委員

東大農場の維持について、田無の方が保全を都に提案したりもしている。審議会だけ

で対応できる問題ではないので、実際に実行できるのか、難しいと考えている。

矢内会長

西東京らしさというのも、ひとつの選択基準となりうるだろう。

単に残すというだけでなく、市民の保全の気運を高めるとかのアプローチでどうだろうか。

鈴木委員

東大農場を含めた緑被率の目標を立てるなら、保全が前提だが、議会でも方針が明確になっていない。計画の中で残すと書いたところで、どうにもならない問題だが、計画で無視するわけにも行かない。どのように示すか、市民運動につなげていく道筋まで示すのか、検討すべき点だろう。「合併の目玉として保全する」くらいの気持ちが市にあるかどうか。

櫻井委員

東大農場に関する情報が良く分からない状況。国がどういう意向なのかわからない。市民が訴えてどうにかなる問題かどうか、わからない。

中村委員

たしかに東大農場に関する情報は無い。現状では、市民団体からは、市から都や国に働きかけるということを訴えている。今度、東大農場でイベントを開き、市民意識を東大農場へ向けてもらうことを考えている。

市のいろんな審議会などでも東大農場は取り扱っているようであり、それらにも、市民団体として働きかけようとしているところである。

矢内会長

清水さんと櫻井さんから、細かな修正意見について文章を提出していただけたということもありましたが、全体会で議論する余裕がありません。そこで、シンポジウムの進め方も含めて、小委員会として検討をするということで、了承いただけますか。 了承

金成委員

重点の「ゴミ半減」プロジェクトのなかで、剪定枝と生ゴミの話が抜けている。その他プラスチック類...と「その他」をいれてほしい。生ゴミ資源化の検討を図るというのも入れてほしい。モデル地区の実施も入れてほしい。

櫻井委員

剪定枝の資源化は、造園業者では既にやっていることなので、市でも出来るのではないかと。

矢内会長

シンポジウムの資料では、重点については、プロジェクトの全てについて大まかな解説は入れたい。発表は、重要なところの的を絞って行ってほしい。発表の打合せも含め、8日以降で打合せを行いたい。

それでは、今日は珍しく早いですが、ここまでとします。

(20時40分閉会)

以上